

# いわいさわ 岩井沢遺跡

～縄文時代の狩り場～

平成 28 年 6 月 23 日（木）現地公開資料

## 調査の概要

遺跡名：岩井沢遺跡 所在地：宮古市門馬地内  
事業名：宮古盛岡横断道路建設事業  
委託者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所  
調査対象面積：6,500 m<sup>2</sup> 調査期間：平成 28 年 4 月 8 日～8 月 31 日（予定）  
調査機関：公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

## はじめに

岩井沢遺跡は JR 山田線松草駅から東におよそ 2.2km の位置にあり、調査の前は畑や林として利用されていました。調査区の標高は約 570 m で、同じ宮古市でありながら宮古駅周辺（標高約 10m）とは 560m もの差がある高地になります。

## 1. みつかった遺構

調査区は南北に長い形をしており、調査区内には北東から南西方向に流れる古い沢の跡が 3 条見つかっています。今回の調査ではこれらの沢の跡の縁で縄文時代に作られたおとあな陥し穴が見つかりました。陥し穴は沢に水を飲みに来る動物（シカなど）を捕まえる為のワナで、細長い溝状や楕円形などいろいろな形があります。

また、調査区の南端付近では縄文時代後期と考えられるたてあなじゅうきょ竪穴住居が見つかりました。

## 2. 出土した遺物

今回の調査で出土した遺物は土器・石器・陶磁器・銭貨があります。このなかでは土器が最も多く、ミカン箱くらいのコンテナで 1.5 箱分出土しています。縄文土器は破片ばかりですが、模様の特徴から早期・前期・中期・後期（約 2000～7000 年前）の土器が出土しています。また、弥生時代前期の可能性のある土器も出土しています。

石器はやじりせんとうき鏟や尖頭器（槍先）など狩りに使う道具や土掘り具であるませいせきふ磨製石斧が出土しています。

銭貨は、寛永通宝が 3 枚出土しています。この辺りは旧宮古街道（閉伊街道）があったと考えられている場所であり、江戸時代にここを通行する人がいたことを示すものといえます。

## まとめ

今回の調査により、岩井沢遺跡は縄文時代には狩りの場として利用されていたことがわかりました。また、幅広い時期の縄文土器や弥生土器が出土したことにより、この遺跡が縄文時代から弥生時代の間人々に利用されていたこともわかりました。

岩井沢遺跡をはじめとする旧川井村の遺跡では、今回のように大規模な発掘調査を行った事例がほとんどありません。しかし、今回のような調査により、これまで実態が知られていなかったこの地域の昔の暮らしぶりがわかってくることでしょう。

岩井沢遺跡の発掘調査はまだ折り返し地点を過ぎたばかりです。これから調査を進めることによって、今回ご紹介したもの以外にも新たな発見があるかもしれません。その際にはまた皆様にご覧いただける機会を持てればと思います。

### 用語説明

遺構（いこう）＝住居や貯蔵穴、墓、火を焚いた場所など地面に残された昔の人々の生活の跡。

遺物（いぶつ）＝土器や石器、装飾品、貝殻、骨など昔の人が生活で使用したもの

陥し穴（おとしあな）＝狩猟を目的に掘られた穴。円形・楕円形・溝状などの形がある。

竪穴住居（たてあなじゅうきょ）＝地面を掘り下げて床とし、これに屋根をかけた半地下式の建物の

うち、炉やカマドが作られ住居として使用されたと考えられるもの。

岩井沢遺跡遺構配置図（6月16日現在）

沢の跡②には約5500年前に十和田火山から降ってきた火山灰が堆積していました。（写真の黄色い部分）



沢の跡①からは縄文時代中期の土器がまとまって出土しました。



国道106号線

沢の跡③

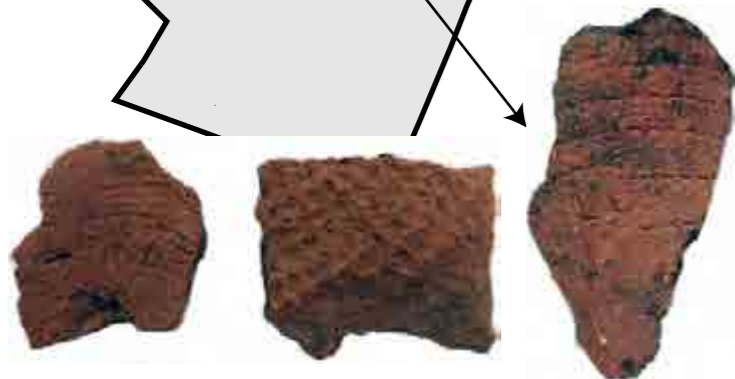
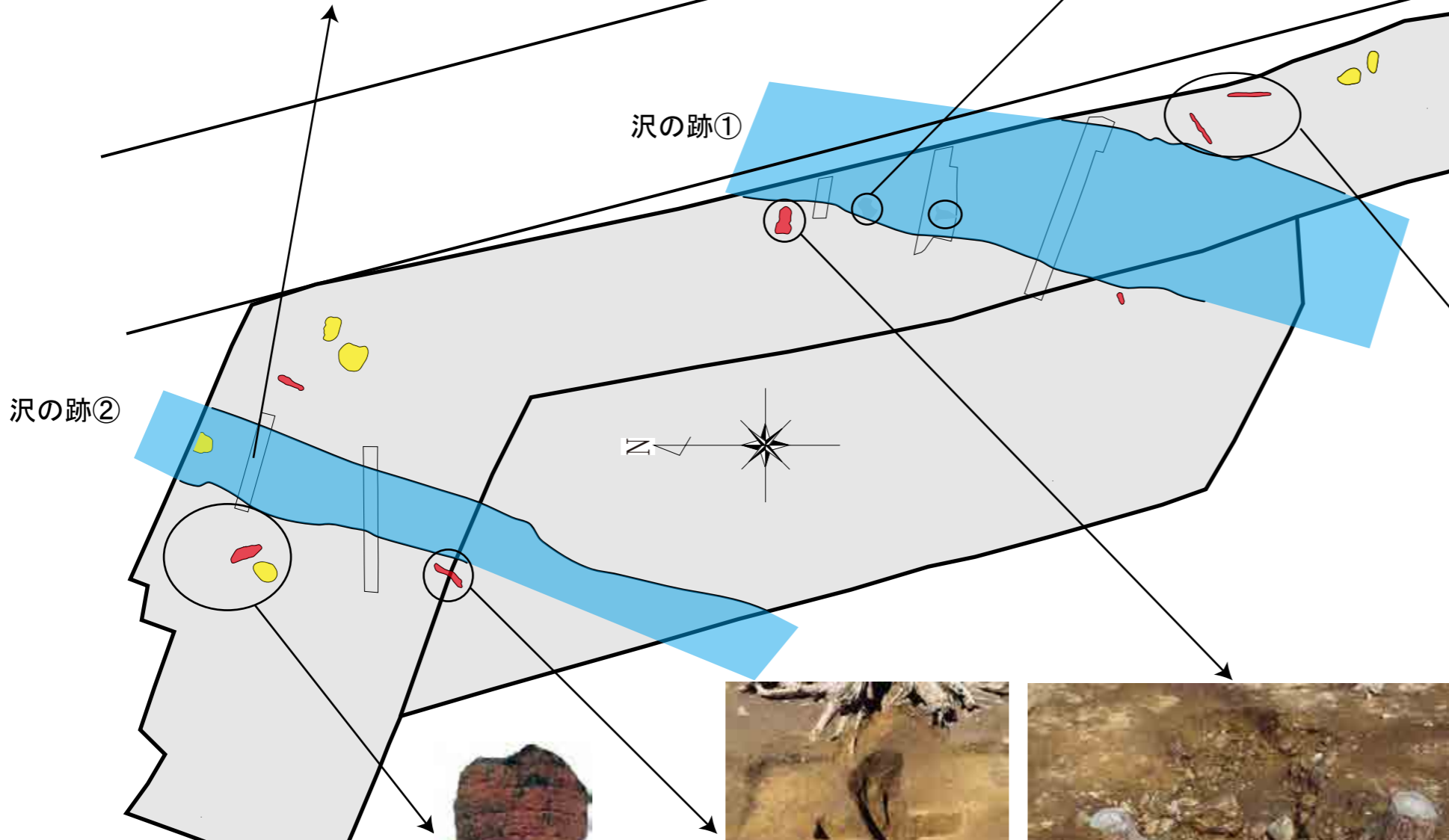


竖穴住居の周辺からは縄文時代後期の土器が出土しています。

竖穴住居

沢の跡②

沢の跡①



この周辺からは縄文時代早～前期の土器が出土しています。



おとし穴にも色々な形があります。



溝状のおとし穴が2基見つかりました。

- おとし穴
- 土坑
- 竖穴住居

0 20m  
1/600